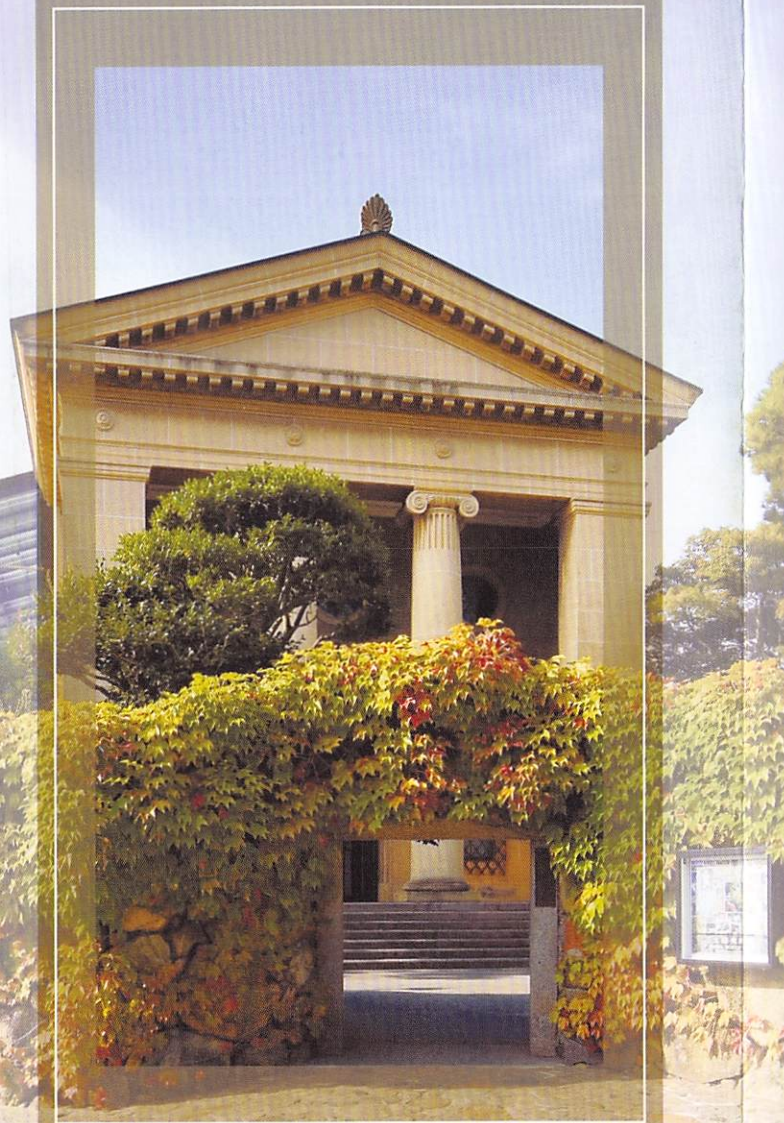


大原美術館



OHARA MUSEUM OF ART

大原美術館について

大原孫三郎(1880～1943)は、倉敷紡績などの企業を経営する一方で、病院や研究所を創立するなど公益性の高い諸事業を推進しました。その孫三郎の経済的支援で1908年に渡欧した洋画家の児島虎次郎(1881～1929)は、自らの画業の研鑽に励むと共に、西洋の優れた美術作品の収集と公開を孫三郎へと提言します。それに応じた孫三郎の支援で、虎次郎はさらに二度の渡欧を果たし、クロード・モネやアンリ・マティスから直接作品を購入するなどして西洋の近代美術を、また古代エジプトや西アジアの美術品を収集しました。それらの収集品と虎次郎自身の作品を公開するために孫三郎によって1930年に創設されたのが大原美術館です。

第二次大戦後、美術館の運営を担ったのは、孫三郎の長男大原總一郎(1909～1968)でした。總一郎は「美術館は生きて成長していくもの」との信念に基づいて、西洋の前衛的な作品や、今では日本の近代美術史を語るには欠かせないものとなった明治以降の洋画、さらに、濱田庄司や河井寛次郎、棟方志功など民藝運動を主導した作家の作品へと収集ジャンルを大きく広げ、それらのための展示場を新設しました。

このように、大原美術館は常に同時代の新たな表現を受け止めながら歴史を積み重ねてきました。現在でも、日本の現代作家との協働に力を入れ、その作品の収集と公開を続けています。



パブロ・ピカソ《鳥籠》



クロード・モネ《睡蓮》



児島虎次郎
《睡れる幼きモデル》



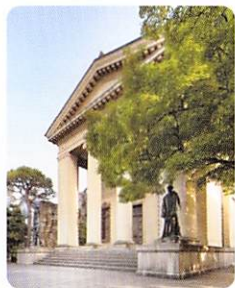
エジプト
《女神イシス、
またはネフティス》



エル・グレコ《受胎告知》



岸田劉生《童女舞姿》



◀ギリシャ神殿の
ような外観は、
1930年の創立
当時の姿をとど
めています。

本館



分館

工事の為長期休館中



▲1961年に建設され、日本近代建築
100選、DOCOMOMO100選に
も選ばれています。
(外観と前庭をご覧ください)

道路をはさんで
観光バス駐車場、
倉敷市立美術館、
倉敷市観光休憩所
があります。



富本憲吉《赤地銀欄手更紗文八角笥》



棟方志功《鷹持妃板画柵》



▲もとは大原家の米蔵。染色家
芹沢銈介のデザインによって
展示館として改装されました。

※貸出や保存のため、展示していない作品もございます。